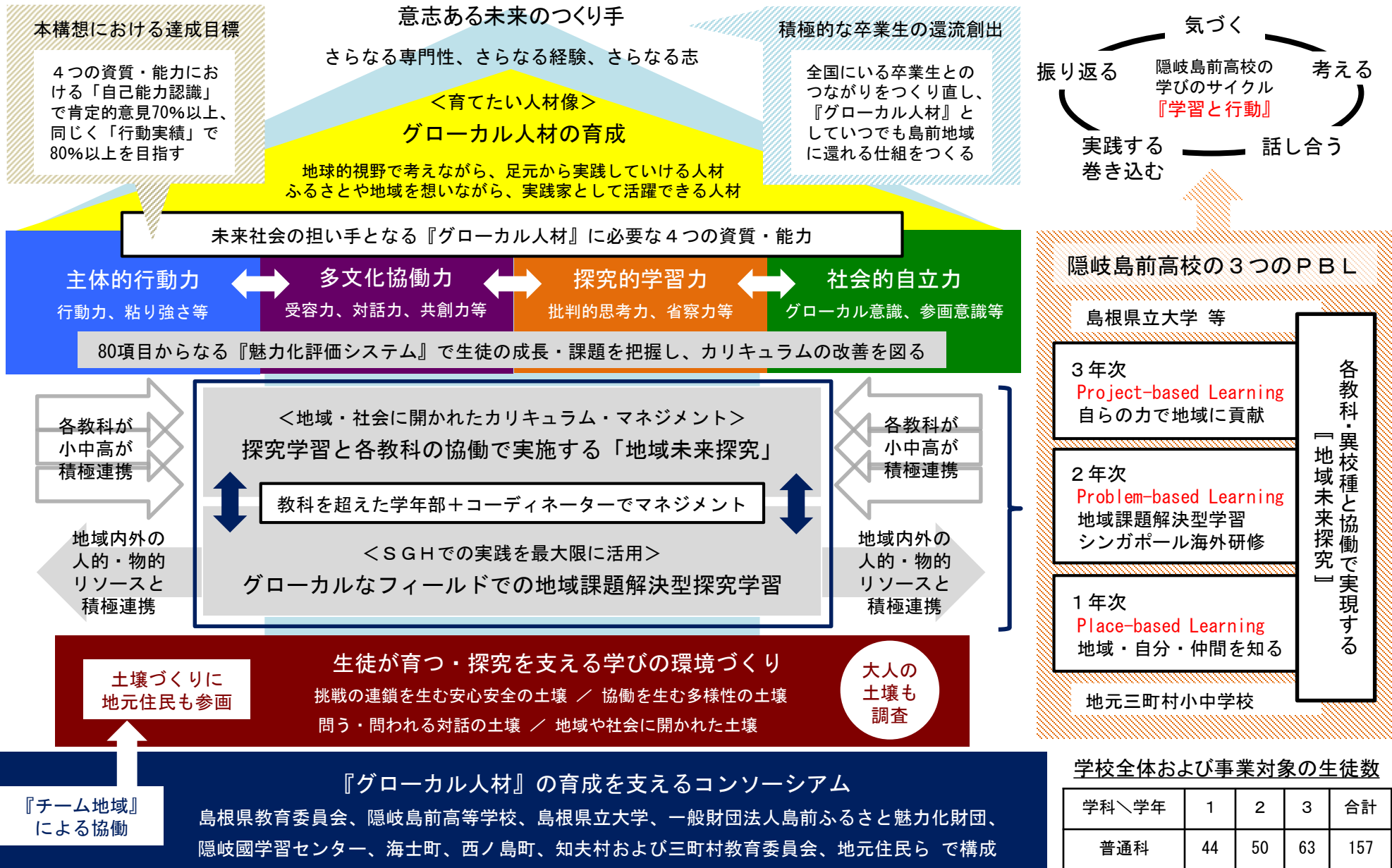


離島発「グローバル人材」育成のための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究



地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	しまねけんりつおきどうぜんこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	①学校名	島根県立隠岐島前高等学校				②所在都道府県	島根県
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	学科：普通科 154名	
普通科	60	43	51	0	154		
⑥研究開発構想名	離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究						
⑦研究開発の概要	<p>これまで本校が実施してきた生徒らがチームで挑む「地域課題解決型探究学習」およびシンガポール海外研修での成果発表は継続して実施する。今回の研究開発では、そういった探究学習のプロセスと各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉える「地域未来探究」を構築する。「地域未来探究」では、探究学習に合わせて各教科で島前地域とシンガポールとの比較研究を行うことなどを想定する。これまでも英語科のパフォーマンステストとシンガポールでの最終発表スライドを連携させるなどしてきたが、これを数学や地歴・公民等の複数教科で展開する。そのために必要なリソースを地域内外の叢智を結集して構築する「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑戦する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本構想の第一の目的は、地域との協働により「地域・社会に開かれたカリキュラム」をつくることである。これまでも地域の諸課題をテーマとする「地域課題解決型探究学習」を実施し、シンガポールへの海外研修で成果発表をしてきた。今回はそういった探究学習と各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係で捉える「地域未来探究」を構築する。</p> <p>第二の目的は、チーム学校を超えたチーム地域で「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑むことである。開かれたカリキュラムに必要な人的・物的リソースを、地域内外の叢智を結集して効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。</p> <p>本構想の目標は、グローバル人材に必要な力は「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力である。卒業までに4つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を調査する。具体的には80項目のアンケート調査を実施し、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が70%以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が80%以上となるよう数値目標を設定する。</p> <p>また、定性的には、生徒たちがチームで取り組む「地域課題解決型探究学習」において、生徒たちが考案し実践した内容が、実際に町役場をはじめとする現場で採用され、地域課題解決や地方創生のアイデアとして活用されることを目指す。そのためには、生徒たち自身がチームで「気づく」→「考える」→「話し合う」→「実践する（巻き込む）」→「振り返る」→「（再び）気づく」というサイクルを何度も周回する必要がある。このサイクル自体の習得を目標としつつ、探究学習終了後に自らの言葉で探究学習の過程やサイクルについて語れることについても目標とする。</p> <p>サイクル周回の過程で教員側に求められることは、失敗への許容である。挑戦を奨励し、失敗を歓迎し、それでも生徒たちが安心・安全の場で「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力を存分に発揮できる環境を構築することを目標とする。</p>					

	<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて必要なのは、各教科と探究学習のプロセスをつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉えることである。「地域課題解決型探究学習」に取り組む中でも、探究学習と教科学習を別のものと分断して捉えている生徒もあり、カリキュラム・マネジメントにはまだまだ課題がある。これまで取り組んできた「地域課題解決型探究学習」は、他校に情報提供できるレベルに到達しつつあるが、教科学習とつなげて捉えるレベルには到達していない。生徒たちにはつながりを意識させることで、教室で学ぶことと地域活動で体験的に学ぶことの関連性を見出すなど「つなげて考える力・行動する力」を養うことができる。</p>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>教科・科目としては、1年次には「夢探究Ⅰ」と「地域生活学Ⅰ」を、2年次には「地域生活学Ⅱ」を、3年次には「夢探究Ⅲ」・「地域地球学」等の総合的な探究の時間および学校設定科目を活用して実施する。「地域課題解決型探究学習」における導入やメンター役は地域の方々の協力を得ながら実施する。</p> <p>2年次のシンガポール海外研修に向けて、すべての教科で「地域未来探究」として、隠岐島前地域とシンガポールの比較研究等を行う。こうした高校生の経験や学びを地域に循環させるため、地元小中学校との交流事業も「地域未来探究」と称して高校生との交流機会を設ける。</p> <p>生徒の成長に係る定期的な確認については、独自に作成したルーブリックや振り返りシート、e-ポートフォリオ等の活用を通して、生徒の状況を把握しながら授業改善を図っていく。研究開発における検証・評価については、島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用する。本評価システムは、本校が考えるグローバル人材に必要な力である「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力における生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を測定するもので、本構想の検証および評価、その後の改善に活用する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本構想は「地域協働推進チーム」を中心に、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を目指す。卒業後の人材目標を共有しながら、総合的な探究の時間を中心とした教育課程を目指し、週に1度学年部の教員が全員参画で議論する時間を設ける。また、各学年部をつなぐ役割として、主幹教諭2名およびコーディネーター4名を配置し、学年横断的に連動・協働を促進する。探究学習における教員の役割を「伴走者」と位置づけ、教員の伴走についても探究し、成果発表を実施する。支援体制としては、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を実現するため専門家の指導・助言を受ける。</p> <p>コーディネーターの具体的な役割としては、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて、必要な「地域内リソース」と学校をつなぐことはもちろんのこと、地域外にしかない専門家や起業家、大学教授などの「地域外リソース」と学校をつなぐことを想定する。また、海外研修における現地調整や交渉などグローバルな活用も想定し、コーディネーター4名のうち半数以上はTOEIC800点以上を条件とする。また、コーディネーターの1名を「学校経営補佐官」としても位置づけ、学校経営に係る伴走役としても活用する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>本構想において、新たに必要となる教育課程の特例はない</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>とくになし</p>

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

【研究開発の実施体制】

管理機関名：島根県教育委員会

1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名	
島根県教育委員会	教育長	新田 英夫
島根県立隠岐島前高等学校	校長	井筒 秀明
公立大学法人島根県立大学	学長	清原 正義
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	理事長	山内 道雄
隠岐国学習センター	センター長	豊田 庄吾
一般財団法人地域・魅力化プラットフォーム	代表理事	水谷 智之
海士町（・教育委員会）	町長	大江 和彦（・平木 千秋）
西ノ島町（・教育委員会）	町長	升谷 健（・扇谷 就二）
知夫村（・教育委員会）	村長	平木 伴佳（・渡部 真也）

2. カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属	備考
カリキュラム開発等専門家	—	—	—
海外交流アドバイザー	ジゼル・バーズニー	一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	①
地域協働学習実施支援員	—	—	—

3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院	教授	藤井 千春 (運営指導委員長)
公立大学法人島根県立大学	学長代行	山下 一也
一般社団法人みつかる・わかる	代表理事	市川 力
株式会社風と土と (海士町商工会 青年部)	代表	阿部 裕志
フリーランス (米国出身/西ノ島在住)	—	チェルシー ゲイタ

4. 経費

区分	金額 (千円)	備考
委託費	487 千円	
管理機関よる負担	千円	
その他	千円	

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫 (※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること)

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	